

氏名（生年月日）	ふじ 藤 た さと こ 田 智 子 （昭和 48 年 4 月 15 日）
本 籍	福 井 県
学 位 の 種 類	博 士（医 学）
学 位 記 番 号	乙 第 2 8 3 号
学位授与の日付	平成 2 8 年 9 月 8 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当
学 位 論 文 題 目	子宮頸・膣部 HPV 関連疾患の薬物治療有効性と治療効果に 影響する因子についての解析
論 文 審 査 委 員	主 査 小 坂 健 夫 副 査 野 島 孝 之 宮 澤 克 人

### 論文審査結果の要旨

HPV は子宮頸癌、尖圭コンジローマ、疣贅および咽頭乳頭腫などの原因ウイルスである。特に子宮頸癌は若い女性で増加し、子宮機能の温存に係わり極めて重要である。異型度が低い CIN1 では自然経過で約 54%が消失するが、残りはより高いグレードに進行することが報告されている。CIN1 での経過観察は、患者本人にとって精神的負担も大きく、また進行した場合 LEEP などの治療を必要とする。著者らは HPV 感染関連疾患の新しい治療法として局所フェノール療法を考案し、安全性と有効性を検討した。

その結果、治療の有害事象は 170 例中 38 例（22.3%）に認めしたが、重篤なものはなく、また、副作用が原因で中止した症例はなかった。

局所フェノール治療単独の治療率は VAIN, CIN1, および CIN2 ではほぼ 100%, CIN3 でも 69.2%と、CIN1 の自然経過消失率 54%などに比べ極めて高率であり、臨床上的有用性が示された。Loop Electrosurgical Excision Procedure (LEEP) 追加は 11 例あったが、外来処置でできる浅く狭い範囲で切除可能であった。LEEP を追加した患者を含め、頸管狭窄の発生は 1 例もなく、患者のうち CIN7 名は妊娠・分娩を問題なく終えていた。平均治療回数は CIN1 で 5.1 回、CIN2 で 9.7 回、CIN3 で 15.3 回、また平均治療期間は CIN1 で 3.4 か月、CIN2 で 6.5 か月、CIN3 で 10.4 か月と、CIN グレードが高くなるにつれ治療回数が有意に増加し、治療期間が有意に延長した。

局所フェノール療法に抵抗する因子としては、①CIN1 に比べて CIN2 または CIN3 が、②妊娠回数が多い、③病変の範囲が広い、④初交年齢が若いことが有意な治療回数の増加あるいは有意な治療期間の延長する独立危険因子であった。

今後、CIN グレードが高い症例や病変の広範な症例では、局所フェノール療法を行うか手術などほかの治療を選別するかの検討が必要と思われたものの、局所フェノール治療単独の治療率が自然経過消失率に比べ極めて高率であり、HPV 感染と診断された患者に対する福音となり、臨床上的有用性が示された。

以上により，本論文は博士(医学)の学位を授与するに値するものと認められる。

---

(主論文公表誌)

金沢医科大学雑誌 第41巻 第2号 平成28年